



(24面から)

## 橋梁点検技術

橋梁点検車が使用できない場合の点検方法として、ロープワークにより橋梁を点検員が点検する「特殊高所技術」やデジタルカメラにより床版を点検する「桁下診断システム」などの試行を実施し、事後評価を行った。

# 並視目視は診断下桁 今年度 赤外線技術

特殊高所技術は、橋梁点検車には経済性が劣るものの、目視という点では従来と同等の精度で、現場条件などで点検車が使えない場合など有効と考えられる。デジタルカメラによる桁下診断は、目視並みの精度が得られ、従来技術と同等の結果が得られた。

22年度も赤外線カメラによる点検技術などが応募されており、点検技術全般において、今後の技術的発展が期待される。これら技術については、点検車での作業が困難な個所や、日常の維持管理などでの緊急点検に活用することを想定している。

## 構造物保全技術

コンクリート構造物について、クラック対策などの調査を行い、その原因などから施工時の対策など、技術管理業務で検討を行っているほか、四国テーマ設定の公募で非破壊によるコンクリート内部の点検手法として、レーダー、超音波による内部診断技術、微破壊による塩化物イオンの現地測定技術などの試行を実施し、その可能性を確認している。

## 橋梁点検の課題

橋長2層以上の橋梁は2056橋。22年度は徳島71橋、香川71橋、愛媛155橋、高知204橋の計504橋を対象に橋梁点検を実施している。8月上旬に発注が終わり、現在、順調に業務が進捗中だ。

課題は対象橋梁数が多いこと、橋梁点検車の効率的運用に留意し、関係機関との調整に取り組んでいる。

## 県単位で技術を

同事務所が中心となつて、四国4県の5大学と各県単位で技術開発懇談会を設け、事務所の持つ技術的課題やニーズおよび試験フィールド、大学の研究のシーズなどを紹介し、意見交換や情報共有を行っている。

ほかに、ユニバーサルデザイン施設などを利用して、地域の社会状況に応じた情報収集、開発促進を進めている。